



5日間

絵画

狂歌百物語

Japanese
Japanses
Japanses

何を
言う
のか

あ、感覚や
記憶の中にある

「境界」と向きあい、まだ言葉に
ならない新しい関係性を
探してみませんか。

Invisible
Boundary

境界

マージナルな
領域ミが
新たな思考と
対話の源泉で
ある。

Die Blechtrömel
des KATZ und Maus
Ein weites Feld

GUESTS
福島尚子
泉並敬有
中谷眞里

ARTISTS 澤崎眞一 古国一洋
HIMOTOKUSABI

主催：人間文化研究棟構 総合地球環境学研究所
人間文化研究棟構 総合地球環境学研究所
「開かれた人間文化研究を目指した社会共創にコミュニケーションの構築」
共催：高知大学地域協働学術部デザイン研究室



絵金は、いま何を語りうるのか

地球規模の環境課題を考えるときに重要なのは、数値や科学的知見だけではなく、人びとが世界をどのように感じ、語り、恐れ、祝福してきたのか——その文化的・感情的な営みを読み解くことも不可欠です。総合地球環境学研究所(地球研)は、こうした視点から自然科学と人文・社会科学、そして芸術や社会実践をつなぐ学際的な取り組みを進めています。その根底には「境界＝マージナルな領域こそが、新たな思考と対話の源泉である」という考えがあります。

本展では、曖昧でとらえがたい「境界」に焦点を当て、「恐怖」という感情を手がかりに、人間と自然、自己と他者、可視と不可視の関係を見直すことを試みます。江戸末期の絵師・弘瀬金蔵(絵金)が描いた芝居絵屏風には、怪談や仇討ちの場面を通じて人間の欲望や恐怖が戯画化され、祭礼の夜に人々を魅了してきました。恐怖のイメージは、異なる存在とのあいだに境界線を引くと同時に、その存在を想像し続ける装置として機能してきたのです。

こうした伝統を踏まえ、荻谷昌江は小泉八雲や『狂歌百物語』に連なる妖怪の想像力を描き、吉岡一洋はギュンター・グラスの思想を視覚化しつつ、土佐の祭礼文化における絵金の情景を提示します。そして澤崎賢一は、恐怖や畏怖、魅惑といった相反する感情が交錯する「境界線そのもの」を映像で探ります。

恐怖は普遍的でありながら、文化や経験、文脈によって異なる意味を持つ感情です。その多義性が生むズレや共鳴を通して、私たちが生きる社会の単一的な価値観を問い直し、理性と感情、可視と不可視のあいだに潜む新たな関係性を照らし出します。本展を通じて、あなた自身の感覚や記憶の中にある「境界」と向き合い、まだ言葉にならない新しい関係性を探ってみませんか。

映像展示

対談 物語を織りなすもの

「見えん さかい目」の文脈から、「物語ること」「見せること」「伝えること」の交差点を探ります。「恐怖」や「境界」をどう立ち上げ、共有可能な経験として提示できるのかを対談いたしました。
・泉並敬真 × 荻谷昌江 × 福島尚子

アーティストトーク

妖怪的想像力の現代的位置

妖怪・怪異という不可視の存在を、美術作品として見える形にすると、何が失われ、何が強調されるかを問います。
日時：2025年10月25日(土) 11時-12時
・中谷有里 × 荻谷昌江

創造の対話 - 芸術実践の必要性を問う

本展のコンセプトについて企画者の想いを語り、大学教育における芸術文化や芸術実践の必要性について考え、グラフィックと映像という表現アプローチの共通点と差異を語ります。
日時：2025年11月1日(土) 15時-16時
・吉岡一洋 × 澤崎賢一

企画／出品作家

澤崎 賢一 SAWAZAKI Kenichi
アーティスト・映像作家／総合地球環境学研究所 特任助教

1978年生まれ。京都市立芸術大学大学院博士後期課程修了、博士(美術)。映像を基盤に異分野・異文化との共同を展開し、「暮らしのモニタージュ」「ヤングムスリムの恋」「センサー／イマジナリー・ダイアログ」など学際的プロジェクトを主宰。主な作品に、展覧会『語りかける庭』(2025)、展覧会『すべてのものとダンスを踊って』(金沢 21 世紀美術館、2024-25)、映画『まなざしのかたち』(2021)、劇場公開映画『動いている庭』(2016) など。textsite.net

吉岡 一洋 YOSHIOKA Kazuhiro
高知大学 教授／グラフィックデザイナー・版画家

1974年生まれ。大阪芸術大学卒業、鳴門教育大学大学院修了、徳島大学大学院博士課程修了、博士(学術)。主な受賞歴は、二科展デザイン部特選、日本版画会展奨励賞、カダケス国際版画展入選(スペイン)。作品制作のほか、地域の芸術文化に関して比較文化研究を行う。本展・研究の一部は、令和 6 年～令和 8 年度日本学術振興会科学研究費補助金(基盤研究(C))「土佐の祭礼文化における絵金の役割—映像の可能性について—」の交付を受けて行われた(研究課題 24K03532)。

荻谷 昌江 KARIYA Masae
アーティスト

1980 年高知県生まれ。大阪芸術大学美術学科学卒業、京都市立芸術大学大学院美術研究科絵画専攻油画修了。絵画・映像・インスタレーションを通じて、「野猿」「トーテム」「マスク」「グンダーカンマー」を軸に人と自然の関係を再考する作品を展開。国内外で個展・グループ展に参加し、NHK 連続テレビ小説「まんぷく」「スカールレット」「ばけけ」では絵画指導も担当。

GUEST 福島尚子(高知県立美術館企画事業課チーフ)、泉並敬真(NHK 連続テレビ小説『ばけけ』ディレクター)、中谷有里(高知県立美術館 主任学芸員)

HIMOTOKUSABI
ART STUDIO



8MEIN.SAKAIME



〒780-0823 高知県高知市菜園場町 5-13